

K- 756

# 山形市埋蔵文化財調査年報

－平成13年度－

2003

山形市教育委員会





# **山形市埋蔵文化財調査年報**

**－平成13年度－**

平成15年3月

**山形市教育委員会**



## 序

本書は、平成13年度に実施された発掘調査の概要をまとめたものです。

山形市内には、国指定史跡「山形城跡」や「鳴遺跡」をはじめ、約300箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。これらの遺跡は、郷土の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において、住民福祉の向上を目的とした各種の社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。また、史跡「山形城跡」や「鳴遺跡」の保存や整備を目的とした発掘調査も、継続されているところです。

いうまでもなく、現場における発掘調査とともに、調査成果の整理と報告、さらにその活用は、埋蔵文化財保護行政の重大な責務であります。山形市教育委員会におきましても、この責務を果たすべく、銳意努力しているところであります。しかしながら、発掘調査で得られた資料を整理・分類するための時間を要するものも少なくありません。そこで、平成13年度に調査が実施された遺跡についてその概要を取りまとめることにいたしました。

本書が、埋蔵文化財の保護と啓蒙のために、そして、皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いであります。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

山形市教育委員会  
教育長 相田良一



## 例　　言

- 1 本書は、平成13年度に山形市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査を総括したものである。
- 2 試掘調査については、本書をもって報告とし、今後報告書を作成する予定のあるものについては、略述するにとどめた。また、同年度に報告書が刊行されるものについては割愛した。
- 3 本書の作成・執筆は、五十嵐貴久・須藤英之・國井修が担当した。編集は國井修が担当した。
- 4 出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会が一括保管している。

## 凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。  
SI：竪穴住居跡 SB：掘立柱建物跡 EP：掘立柱建物跡を構成する柱穴  
SD：溝跡・溝状遺構 SK：土坑・墓坑 SE：井戸跡 SR：石積み遺構 SP：不明ピット
- 2 遺構番号は現地調査段階での番号を踏襲している。
- 3 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。
- 4 その他、必要に応じてその都度脚注を付している。

## 目 次

### 第Ⅰ章 埋蔵文化財保護の動向

調査の方法 .....	(國井修) .....	1
平成13年度の調査状況 .....	(國井修) .....	1

### 第Ⅱ章 調査の概要

史跡 山形城跡 .....	(五十嵐貴久) .....	4
双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡 .....	(須藤英之) .....	8
吉原Ⅲ遺跡 .....	(國井修) .....	11
渋江遺跡 .....	(須藤英之) .....	15

### 第Ⅲ章 総括

平成13年度の調査成果 .....	(國井修) .....	19
-------------------	-------------	----

## 表

表1 平成13年度埋蔵文化財調査一覧 .....	2
表2 吉原Ⅲ遺跡 SB1 土層注記 .....	14

表3 渋江遺跡 SI1 土層注記 .....	17
表4 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧 .....	20

## 挿 図

第1図 平成13年度調査遺跡位置図 .....	3
第2図 史跡山形城跡本丸大手門 遺構平面図 .....	6
第3図 史跡山形城跡本丸大手門X面石垣・ Y面石垣平面図・立面図 .....	7
第4図 双葉町遺跡・城南町一丁目 遺跡調査位置図 .....	10

第5図 吉原Ⅲ遺跡遺構配置図 .....	12
第6図 吉原Ⅲ遺跡 SB1 平面図 .....	13
第7図 渋江遺跡調査概要図 .....	16
第8図 渋江遺跡 SI1 平面図・断面図 .....	17
第9図 渋江遺跡 SI1 出土遺物 .....	18

## 第Ⅰ章 埋蔵文化財保護の動向

### 調査の方法

本市教育委員会では、各種開発事業と埋蔵文化財の保護の調整を図るために、事前に調査を実施し、調整の際の基礎資料としている。その方法については、山形県教育委員会に準じ、以下のように定めている。

#### A 調査：現地確認調査・表面踏査・聴き取り

現地に赴き、地形観察、表面踏査、周辺住民からの聴き取り等により、遺跡の存在する可能性とその凡そその範囲を推定する。

#### B 調査：試掘調査

遺跡若しくは遺跡が所在する可能性のある区域において、その範囲内に試掘坑を設定し、遺構・遺物の分布範囲や構造確認面までの深さ等を確認する。事業調整や調査計画策定の際の基礎資料とする。

#### C 調査：発掘調査

A・B調査の結果、遺跡の現状を保存することができない場合、あるいは学術的に調査が必要な場合に実施する。

#### 立会調査

工事が埋蔵文化財に及ぼす影響が軽微と判断される場合に、その工事が埋蔵文化財に及ぼす影響を確認するために工事の際に立ち会うもの。又は、事業範囲が狭小で、通常の発掘調査が実施できない場合に工事と並行して行う小規模の発掘調査。

### 平成13年度の調査状況

平成13年度は、土地区画整理事業、住宅団地開発事業、道路改良工事、鉄塔建設に伴う緊急発掘調査を実施している。また、国指定史跡「山形城」の整備事業に伴う発掘調査も継続して行っている。

山形駅西口土地区画整理事業に伴う調査では、事業地内の道路改良工事に伴う発掘調査が主体となってきた。調査を実施した遺跡は、双葉町遺跡及び城南町一丁目遺跡である。また、過年度調査部分についての整理作業を進めている。

吉原土地区画整理事業に伴う調査では、事業地内の道路建設に伴う現地調査がほぼ終了し、区画整理地内に建設される各種建築物建設に伴う調査が主体となってきた。調査を実施した遺跡は、吉原Ⅲ遺跡である。

住宅団地開発事業では、吉原Ⅶ遺跡の調査を実施している。調査成果については、平成13年度中に報告書を刊行している。

鉄塔建設工事については、上谷柏遺跡の調査を実施している。調査成果については、平成12年度に調査を実施した石田遺跡と合わせて、平成14年度初めに報告書を刊行している。

その他、道路改良工事や史跡整備事業に伴う試掘調査・立会調査を実施している。

なお、平成13年度の調査状況は表1のとおりである。

表1 平成13年度埋蔵文化財調査一覧

No	遺跡名	所在地	事業名	調査区分				県遺跡番号	備考
				A	B	C	立会		
1	山形城跡	山形城町	山形公園整備事業			○		1(201-001)	
2	山形城三の丸跡	本町	山形市立第一小学校校舎改築工事	○				201-002	平成14年度発掘調査実施・報告書刊行
3	双葉町	双葉町	山形駅西口土地区画整理事業		○			平成9年度新規	
4	城南町一丁目	城南町	山形駅西口土地区画整理事業		○			平成9年度新規	
5	吉原 I	吉原字若宮	店舗建設工事	○				平成8年度新規	慎重工事
6	吉原 III 三つ江		アパート建設工事	○				平成8年度新規	小規模な発掘調査実施
7	吉原 IV 吉原字坂巻		住宅団地開発事業		○			平成11年度新規	平成13年度報告書刊行
8	上谷柏	上谷柏	鉄塔建設工事	○	○			平成13年度新規	平成14年度報告書刊行
9	長谷堂城	長谷堂字城山	園路整備工事			○		104(201-011)	
10	渋江	渋江字田中	市道明治1号線道路改良工事			○		160	
11	石谷	柏	市道中谷柏津金沢線道路改良工事	○				82	遺跡範囲外
12	梅野木前2	梅野木前	鳴土地区画整理事業		○			平成3年度登録	
13		南石岡	病院建設	○					遺跡所在せず。
14		銅町二丁目	住宅建築	○					遺跡所在せず。



第1図 平成13年度調査遺跡位置図

## 第Ⅱ章 発掘調査の概要

### 史跡 山形城跡

#### 1 調査要項

遺跡番号 県遺跡番号 1  
遺跡略号 KJO  
所在地 山形市霞城町3番地（霞城公園）  
調査原因 史跡山形城跡本丸大手門復原整備事業史跡  
調査面積 2,850m<sup>2</sup>  
調査期間 C調査 2001/7/2～2001/12/3  
調査担当者 五十嵐貴久（調査補助員 高橋拓）

#### 2 調査の経緯

山形城跡は、昭和61（1986）年に国史跡指定を受け、平成3（1991）年には「二の丸東大手門」の復原が完了した。その後、整備事業計画に基づき本丸の整備の基礎資料を得るために調査が進められてきた（武田1996『山形城跡本丸堀発掘調査概報』山形市教育委員会）。平成8年からは本丸大手門の復原整備を目的とした調査が行われ、その結果をもとに大手門石垣の修復工事が平成10年度より進められている。

発掘調査も石垣修復工事に関連しており、平成13年度は東西両櫓台石垣の脇にある石垣の構造調査を主眼とし、本丸東堀の堆積層序の確認調査を実施した。

#### 3 遺跡の立地と環境

山形城跡は藏王山系を源とする馬見ヶ崎川扇状地の扇端部湧水帶にあり、市街地のほぼ中央に位置する。城跡は馬見ヶ崎川の氾濫による砂礫層を基盤とした平地に立地しており、現在までの発掘調査により繩文時代以来の遺構・遺物が検出されている例からも人々の拠点の生活域であった。調査地点は近現代の攪乱により旧地表等は確認できないが、氾濫等による河川砂と腐食質土層との互層状の堆積層が上位に存在し、下層は砂礫層が厚さ約4m堆積する状態で、本丸堀の法面（側面）を支持するものこの砂礫層である。現在、山形城跡は文化・体育施設等が配備された都市公園機能を有すると共に、市街地における広大な綠地として市民の憩いの場として利用され、かつ現在史跡整備として近世山形城の姿が復原されつつある。

#### 4 遺跡の歴史的経緯

山形城跡は南北朝期の延文2（1356）年、足利一門の斯波氏により築かれたと伝わる。初代城主は斯波兼頼で、後に最上氏を名乗り第11代最上義光の文禄・慶長期（1592-1614年）に現在最上時代山形城下絵図として残る城下町に発展した。最上氏最大57万石の居城として三の丸までの輪郭式の広大な城であったが、元和8（1622）年鳥居氏が入部の際に本丸・二の丸内を改修したと伝えられ、現在の二の丸の形に整えられた。本丸堀は明治時代に旧陸軍の兵営地が設置される際に埋め立てられ、その後遺構は全く不明であったが、平成6（1994）年以降約100年ぶりに遺構の存在が確認された。

## 5 検出された遺構と遺物

今年度の調査範囲を仮称X面石垣の解体修復に伴う発掘調査地点のX地区と、仮称Y面石垣の解体修復に伴う発掘調査地点のY地区とに分割したほか、本丸堀地区も一部追加調査を行った。以下、地区ごとに詳細を述べる。

### X地区

**石垣（X面石垣）**：平成12年度の発掘調査により全容が明らかになった石垣で、現存する範囲で長さ約14.5m・高さ約5.5mでおよそ7段の石積みを数え、裏込石の幅は最広1.2m、最狭1.0mで北側の土塁側壁に向かうに従い裏込の幅がやや狭くなる傾向を示しており、栗石には直径約10~20cmの安山岩・花崗岩を用いていた。石材はほとんどが安山岩で1.0~1.2mの控長をもち、石垣前面には割加工で現れた割面や旧表面にノミ搔きによる加工が施されていたが、最下層の根石に対しては表面加工を施していないことが明らかとなった。裏込層の一部にトレーナーを設定し断面観察を行ったところ、根石周辺の地山を約1m掘り下げた「根切り」の状態を示し、かつ川原石により安定的に固定されていることも明らかとなった。裏込めの背面にあたる地山部分は、基本層序の砂礫層であり栗石層との境界が不鮮明であったが、明らかな人為再堆積層を確認するには及ばなかったことから、栗石を直接背面の地山まで据え付けたものと考えられる。この石垣は「打ち込みハギ」「乱積み」による施工で基本的には檜台石垣と同時期に建設されたものが基礎となるが、それ以降改修や崩壊に係る資料はなく、今回の発掘調査においても詳細な石垣の変遷は捉えられなかった。ただし、裏込層より瓦類・石鉢・かわらけなどが出土している。軒平瓦には「宝珠文」を中心飾りにもつものがあり、石垣構築に係る年代を示す可能性がある。

### Y地区

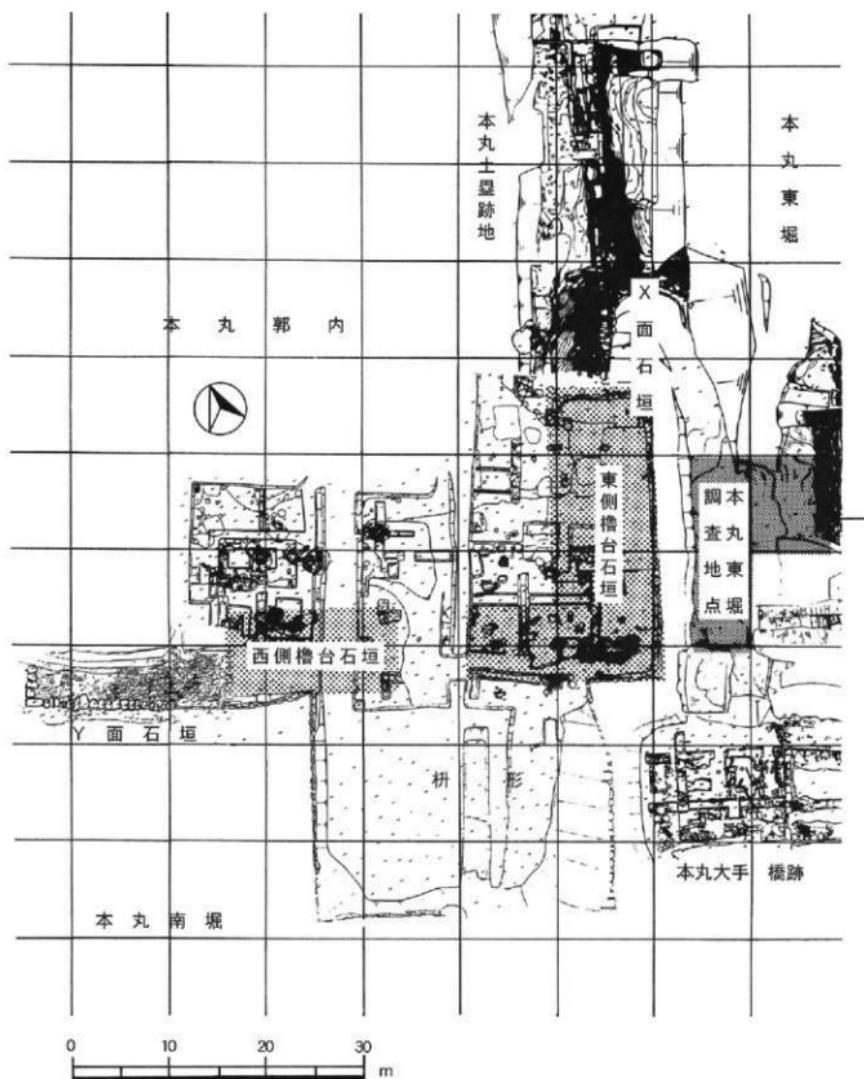
**石垣（Y面石垣）**：平成11年度の発掘調査により新規発見の石垣で、復原の参考にしている古絵図に記載のない石垣である。西側檜台石垣根石より上3~4段が西に約20m延長し、西端には直方体加工隅石が算木積みで4段現存していた。Y面石垣隅より側面方向では石垣が4~5石続いて地山に留まっていた。現状で堀側の石垣は7~8段の石積みを数えるが、標高約128.5m付近で止まり最上部は崩落した際に堀側に身を乗り出した様な状態で発見されていることから、本来は更に高かった可能性がある。

裏込石の幅は上段（石垣最上位より2・3段目）では約3.5（二間）mあるが、中段（石垣同じく5・6段目）より下では約2（一間）mと狭くなる傾向が認められた。更に、裏込層の一部にトレーナーを設定し断面観察を行ったところ、X面石垣同様「根切り」の状態を示し、かつ根石直後にあたる位置に「控え石材」と呼ぶ石材固定を目的にしたと考えられる石が一部で確認された。この石材は石垣石材よりやや小さい規模で、ただし割加工などを一切施していないものである。石垣根石をより強固に固定する意図が窺える。

## 5まとめ

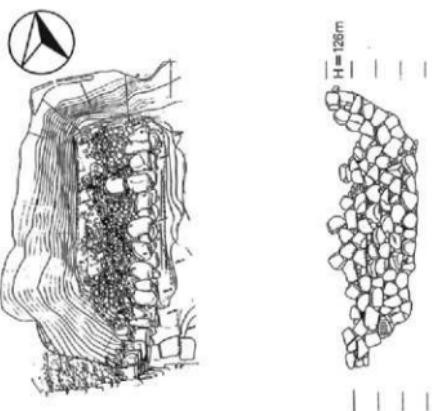
今回の調査は、山形城の石垣構築技術を確認する目的で行った。その結果、いずれの石垣も檜台・樹形石垣と工法的にもほぼ同時期の普請による石垣であると認識した。そのほか、本丸堀を一部追加調査し、堀内堆積土の上層から瓦・陶磁器・石製品・土製品・木製品・金属製品・動物遺体等が出土した。

今年度で本丸大手門石垣に関しては調査が終了した。今後、周辺の堀・郭内の調査を行い、併せて整理・研究を進める予定である。

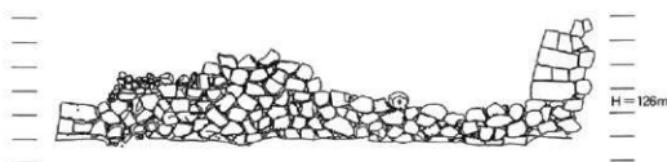
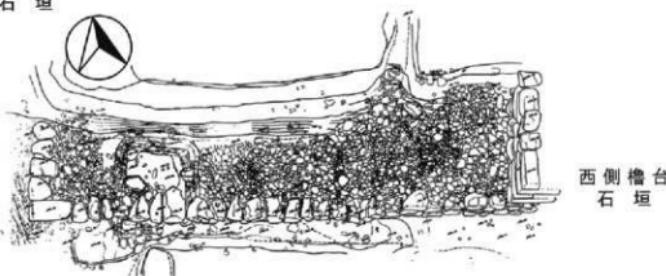


第2図 史跡山形城跡本丸大手門平面図 ( $S = 1/500$ )

X面石垣



Y面石垣



第3図 X面石垣・Y面石垣平面立面図 (S = 1/200)

## 双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡

### 1 調査要項

遺跡番号 平成9年度新規登録

遺跡略号 JON V (城南町一丁目遺跡 都市計画道霞城公園南口線建設工事)

JON VI (城南町一丁目遺跡 区道10号線)

FTB V (双葉町遺跡 都市計画道十日町双葉町線)

所在地 山形市城南町一丁目 (JON V・JON VI)・山形市双葉町一丁目 (FTB V)

調査原因 山形駅西口土地区画整理事業

調査面積 1,200m<sup>2</sup> (JON V) 100m<sup>2</sup> (JON VI) 36m<sup>2</sup> (FTB V)

調査期間 C調査 2001/9/26~2001/11/4 (JON V)

2001/11/2~2001/11/17 (JON VI・FTB V)

調査担当者 須藤英之 岩井良太 (JON V)

斎藤仁 黒澤奈都 (JON VI・FTB V)

### 2 調査の経緯

山形駅西口地区は山形市都市開発部新都市拠点整備課が主体となり、土地区画整理事業が実施されている。事業地内が山形城三の丸跡の範囲内に含まれることから、平成9年度より継続的に、開発事業によって遺跡に影響の及ぶ範囲について山形市教育委員会・山形県埋蔵文化財センターにより緊急発掘調査が実施されている。

**JON V:** 市道霞城公園南口線建設事業が計画され、当市教育委員会に埋蔵文化財の有無について照会があった。事業予定地が城南町一丁目遺跡に隣接することから、開発側と協議の上、当市教育委員会が試掘調査を行ったところ、遺構・遺物が検出された。これにより、事業予定地内まで遺跡範囲の広がりが確認されたため、事前に緊急発掘調査を実施し記録保存を目的とした調査を実施する運びとなった。

**JON VI:** 区画道路10号線建設事業が計画され、当市教育委員会に埋蔵文化財の有無について照会があった。事業予定地が国指定史跡山形城跡に隣接することから、開発側と協議の上、当市教育委員会が試掘調査を行ったところ、遺構・遺物が検出された。これにより、事業予定地内まで遺跡範囲が広がることが確認されたため、事前に緊急発掘調査を実施し、記録保存を目的とした調査を実施する運びとなった。ただし遺跡名称は、史跡指定地から外れるため、城南町一丁目遺跡に含むものとした。

**FTB V:** 都市計画道十日町双葉町線当市教育委員会に埋蔵文化財の有無について照会があった。事業予定地が双葉町遺跡に隣接することから、開発側と協議の上、当市教育委員会が試掘調査を行ったところ、山形城三の丸堀跡と考えられる遺構が確認された。これにより、事業予定地内まで遺跡範囲が広がることが確認されたため、事前に緊急発掘調査を実施し、記録保存を目的とした調査を実施する運びとなった。

### 3 遺跡の立地と環境

城南町一丁目遺跡・双葉町遺跡共に山形市街中央、JR奥羽本線山形駅の西側に隣接して所在する。地

形的には、市街地北部を北西に流れる馬見ヶ崎川によって形成された扇状地扇端部に立地する。標高は約127mを測る。現在、山形城三の丸地内は市街地化が進んでおり、土塁や堀は十日町の国指定史跡地内や、市立第七小学校北側などに部分的に残存しているのみである。

#### 4 検出された遺構と遺物

JON V：検出された遺構は近世初頭の土坑・井戸跡・溝跡、平安時代の竪穴住居跡、縄文時代中期の柱穴群及び遺物包含層を中心とする。近世と、平安時代・縄文時代の二時期相当の文化層が確認された。詳細については現在整理途中である

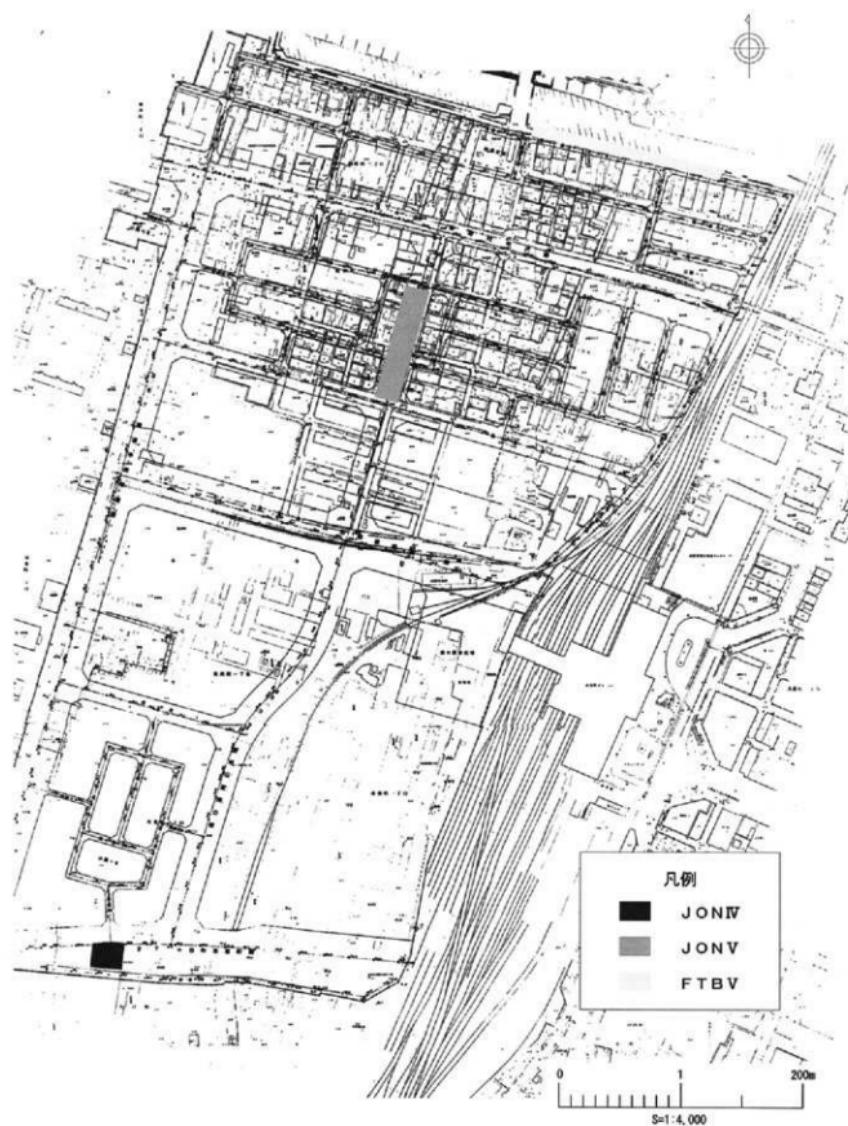
JON VI：検出された遺構は近世初頭の土坑・井戸跡・溝跡である。詳細については現在整理途中である。

FTBV：検出された遺構は山形城三の丸堀跡と考えられる。出土遺物は近代以降の遺物のみであり、遺構についても、堀の機能時期など詳細については現在整理途中である。

#### 5 まとめ

平成13年度の城南町一丁目遺跡・双葉町遺跡の調査については、いずれも山形駅西土地区画整理事業に伴う道路建設工事に先立つ緊急発掘調査である。本年度の発掘調査により、城南町一丁目遺跡の範囲は更に北西方向に、双葉町遺跡は南方向への広がりが認められた。また JON V 遺跡では、城南町一丁目遺跡の従前の調査でも散見されていた縄文時代の遺物群が、初めて遺構と共に検出された。

双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡共に、平成13年度の調査部分については平成16年度中に報告書を刊行する予定である。



第4図 双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡調査位置図

## 吉原III遺跡

### 1 調査要項

遺跡番号 平成8年度新規登録  
 所在地 山形市三つ江  
 調査原因 アパート建設  
 調査面積 50m<sup>2</sup>  
 調査期間 B・C調査 2002/1/18～2002/1/21  
 調査担当者 武田和宏

### 2 調査の経緯

工事予定地内が周知の遺跡吉原III遺跡の範囲内であると推測されたため、試掘調査を実施して、遺跡の有無の確認を行った。調査の結果、工事予定地内が遺跡範囲に含まれることが確認された。事業者との協議の結果、建築物の工法上、遺跡の破壊は免れなかったので、小規模な発掘調査を実施した。

### 3 遺跡の立地と環境

本遺跡は山形市の南部、市街地から約3km離れた山形市大字吉原字若宮に所在する。この付近は馬見ヶ崎川が形成した扇状地の扇端部にあたり、遺跡は須川右岸の微高地上に立地している。北側を犬川、南側を竜山川が西流している。遺跡は須川と犬川、竜山川の合流点近くに位置し、旧羽州街道が接していたことからも水・陸上交通の要衝であったと考えられる。標高は118～119mを測る。

これまで、吉原I地区画整理事業に関連して、吉原I～VI遺跡、若宮の橋の発掘調査が実施されている。吉原I遺跡では堀り方約1mの柱穴で構成される掘立柱建物跡が検出されており、官衙的な集落が所在していたと推定される地域である。

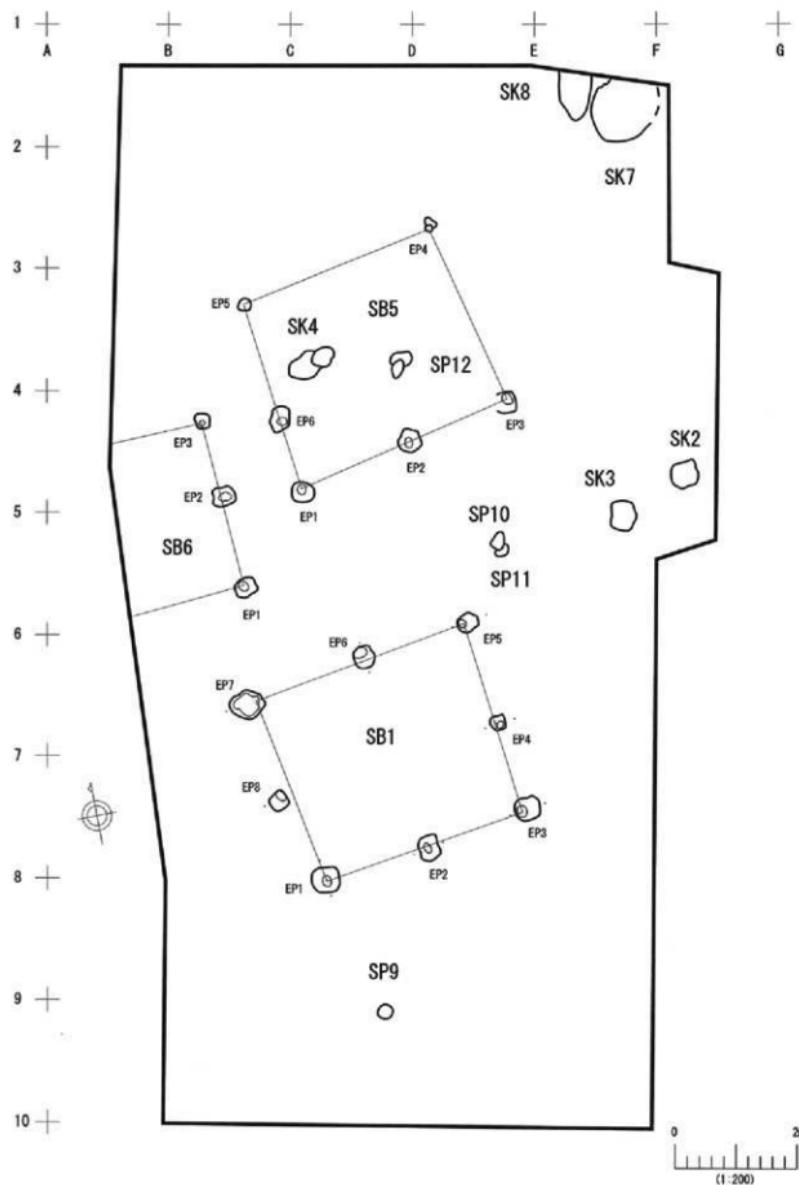
### 4 検出された遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は掘立柱建物跡3棟及び土坑数基である。その他の遺構は、近代以降の船橋及び搅乱であった。掘立柱建物跡は、梁行2間、桁行2軒の建物跡及び規模不明の建物跡で、各柱穴間の長さは約160cmを測る。柱穴内からは、8世紀末葉～9世紀前葉の土師器、須恵器が出土したが、いずれも小破片で、明確に器種が判別できるものは少なかった。

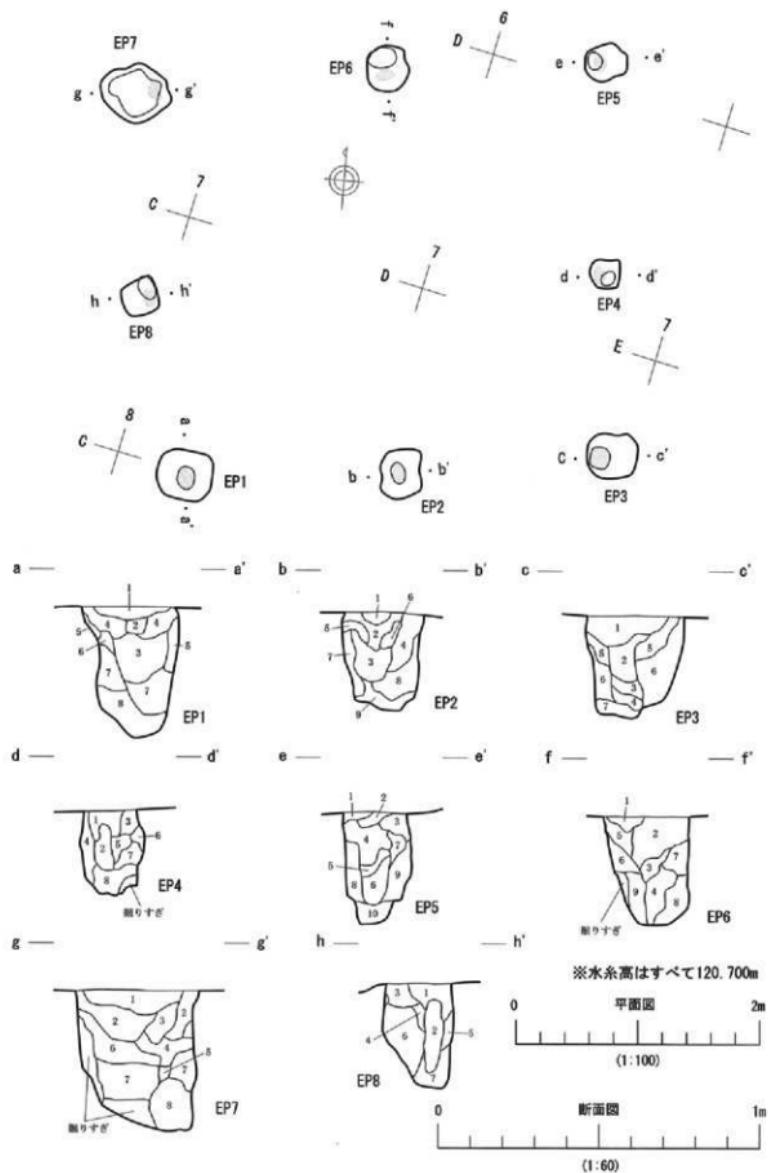
土坑はいずれも検出面からの深さが非常に浅く、その用途を判断することはできなかった。掘立柱建物跡同様8世紀末葉～9世紀前葉の土師器、須恵器が出土したが、器種を判断できるものは少なかった。

### 5 まとめ

過去の分布調査では、遺跡西側の範囲が明確でなかったが、今回の調査により、これまで確認された範囲よりも更に西側へ伸びることが確認された。また、検出された掘立柱建物跡は、これまで同遺跡で検出された掘立柱建物跡とほぼ同様の状況を呈しており、建物域の範囲を確定するための一資料を得ることができた。



第5図 吉原III遺跡遺構配置図



第6図 吉原III遺跡 SB1 平面図

表2 吉原Ⅲ遺跡 SB1土層注記

	1	10YR 3 / 1 黒褐色シルト	炭酸じる。
	2	10YR 2 / 1 黒色シルト	炭酸じる。
	3	10YR 3 / 1 黒褐色シルト	10YR1.7 / 1 黑色シルト(直徑3~5mm)・地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)・直徑3~5mmブロック塊に混じる。
EP 1	4	10YR 3 / 1 黒褐色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)ブロック混じる。
	5	10YR 6 / 4にぶい黄褐色シルト	地山崩落土。
	6	10YR 3 / 1 黒褐色シルト	F4と比べて地山ブロックの混入が多い。
	7	10YR 6 / 4にぶい黄褐色シルト	10YR 2 / 1 黒色シルト混じる。
	8	10YR 6 / 4にぶい黄褐色シルト	10YR 2 / 1 黑色シルト・25Y 6 / 2 灰褐色シルト混じる。
	1	10YR 3 / 1 黒褐色シルト	土範囲含む。炭(直徑3~5mm)混じる。
	2	10YR 2 / 1 黒色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)ブロック、炭(直徑3~5mm)混じる。
	3	10YR 2 / 1 黑色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)・直徑2~3mm・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑5~8mm)・炭(直徑3~5mm)混じる。
EP 2	4	10YR 3 / 1 黒褐色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)ブロック(直徑10~12mm)混じる。
	5	10YR 7 / 6 明褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルト(直徑10mm)混じる。
	6	10YR 2 / 1 黑色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)ブロック、炭(直徑3~5mm)混じる。
	7	25Y 7 / 2 灰褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルト・地山(25Y 7 / 2 灰褐色シルト)混じる。地山崩落土。
	8	10YR 5 / 4 にぶい黄褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルト・地山(25Y 7 / 2 灰褐色シルト)混じる。地山崩落土。
	9	25Y 7 / 2 灰褐色粘土	地山(10YR 5 / 4にぶい黄褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルト混じる。
	1	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)ブロック(直徑2~3mm)が混じる。
	2	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)ブロック(直徑2~3mm)が少量混じる。
	3	10YR 6 / 4にぶい黄褐色シルト	地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック混じる。
EP 3	4	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック混じる。
	5	10YR 5 / 2 灰褐色砂質シルト	10YR 3 / 1 黑褐色シルト・地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロックが少量混じる。
	6	10YR 6 / 4 にぶい黄褐色粘土	地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック混じる。
	7	25Y 6 / 1 黄灰色細砂質粘土	10YR 3 / 1 黑褐色シルト・10YR1.7 / 1 黑色シルト・地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)混じる。
	1	10YR 2 / 1 黑色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)ブロック(直徑5~8mm)少量化じる。
	2	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	均質。
	3	10YR 7 / 3 にぶい黄褐色シルト	10YR 2 / 1 黑色シルトブロック混じる。
EP 4	4	10YR1.7 / 1 黑色シルト	地山(10YR 7 / 3にぶい黄褐色粘土)・10YR 2 / 1 シルトブロック少量化じる。
	5	10YR1.7 / 1 黑色シルト	地山(10YR 7 / 3にぶい黄褐色粘土)・10YR 2 / 1 シルトブロック少量化じる。F4に比べ地山ブロックの混入が多い。
	6	10YR1.7 / 1 黑色シルト	地山(10YR 7 / 3にぶい黄褐色粘土)が混じる。
	7	10YR 5 / 4 にぶい黄褐色粘土	均質。
	8	10YR1.7 / 1 黑色シルト	地山(10YR 7 / 3にぶい黄褐色粘土)・地山(25Y 6 / 2 灰褐色粘土)ブロック混じる。
	1	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	均質。
	2	10YR 3 / 1 黑褐色	地山(25Y 6 / 2 灰褐色粘土)ブロック(直徑3~5mm)混じる。
	3	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	炭化物(直徑3~5mm)混じる。
EP 5	4	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	地山(25Y 6 / 2 灰褐色粘土)ブロック(直徑30~50mm)・炭(直徑3~5mm)混じる。
	5	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑5~8mm)混じる。
	6	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑5~8mm)混じる。
	7	10YR 4 / 2 灰褐色	均質。
	8	25Y 6 / 2 灰褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑5~10mm)混じる。
	9	25Y 6 / 2 黄褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑5~10mm)混じる。
	10	25Y 6 / 2 黄褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑5~10mm)少量化じる。
	1	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	地山(10Y 6 / 3にぶい黄褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑3~5mm)混じる。
	2	10YR 2 / 1 黑色シルト	地山(10Y 6 / 3にぶい黄褐色粘土)ブロック、炭混じる。
	3	10YR 4 / 1 黑褐色シルト	地山(10Y 6 / 3にぶい黄褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック、炭混じる。
EP 6	4	10YR 4 / 1 黑褐色シルト	地山(10Y 6 / 3にぶい黄褐色粘土)・地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)ブロック、炭混じる。
	5	10YR 4 / 1 黑褐色シルト	均質。
	6	10YR 6 / 3 にぶい黄褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑3~5mm)混じる。地山崩落土。
	7	25Y 4 / 1 黄褐色シルト	地山(10YR 6 / 3にぶい黄褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルト混じる。
	8	25Y 4 / 1 黄褐色シルト	地山(10YR 6 / 3にぶい黄褐色粘土)・地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)ブロック混じる。
	9	10YR 6 / 3 にぶい黄褐色シルト	10YR1.7 / 1 黑色シルト・直徑3~5mm・地山(25Y 7 / 2 灰褐色粘土)ブロック混じる。
	1	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	均質。
	2	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	地山(25Y 6 / 2 灰褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑1~3mm)混じる。
	3	10YR 2 / 1 黑色シルト	地山(25Y 6 / 2 灰褐色粘土)・10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑8~10mm)、炭混じる。
EP 7	4	10YR 2 / 1 黑色シルト	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑1~2mm)・25Y 4 / 1 黄褐色砂質シルト、炭混じる。
	5	10YR 6 / 4 にぶい黄褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑1~2mm)混じる。
	6	25Y 4 / 1 黄褐色砂質シルト	均質。
	7	10YR 6 / 4 にぶい黄褐色粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑1~2mm)混じる。
	8	5 Y 6 / 1 灰褐色細砂質粘土	10YR1.7 / 1 黑色シルトブロック(直徑1~2mm)混じる。
	1	10YR 2 / 1 黑色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)ブロック(直徑40mm)と地山崩落土。
	2	10YR 3 / 1 黑褐色シルト	均質。
	3	10YR 6 / 3 にぶい黄褐色シルト	10YR 2 / 1 黑色シルトブロック混じる。
EP 8	4	10YR 6 / 3 にぶい黄褐色シルト	10YR 2 / 1 黑色シルトブロック混じる。
	5	25Y 4 / 1 黄褐色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)・10YR 2 / 1 黑色シルト(直徑5~10mm)ブロック混じる。
	6	10YR 6 / 4 にぶい黄褐色シルト	10YR 2 / 1 黑色シルトブロック(直徑5~10mm)混じる。
	7	25Y 4 / 1 黄褐色シルト	地山(10YR 6 / 4にぶい黄褐色粘土)・10YR 2 / 1 黑色シルトブロック混じる。地山崩落土。

## 渋江遺跡

### 1 調査要項

遺跡番号 山形県遺跡番号 160  
 所在地 山形市大字渋江字田中  
 調査原因 市道明治1号線道路改良工事  
 調査面積 160m<sup>2</sup>  
 調査期間 立会い調査 2001/11/26～2001/11/30 2001/12/4  
 調査担当者 須藤英之 國井修

### 2 調査の経緯

大字渋江地区において、山形市建設部道路維持課により市道田中三条ノ目線拡幅工事事業が計画され、当市教育委員会に埋蔵文化財の有無について照会があった。平成11～13年度には財山形県埋蔵文化財センター及び山形県教育庁文化財課（当時）による「渋江遺跡」の発掘調査が実施されており、当事業予定地はその遺跡範囲に隣接しており、かつ発掘調査工事掘削範囲が狭小であることから、山形市教育委員会では平成13年11月に工事の進捗に合わせて立会調査を実施した。結果、調査区内の東端部に遺構・遺物の広がりが認められ、遺跡範囲の広がりが確認された。そのため工事と併行して発掘調査を実施し、記録による保存をはかる運びとなった。

### 3 遺跡の立地と環境

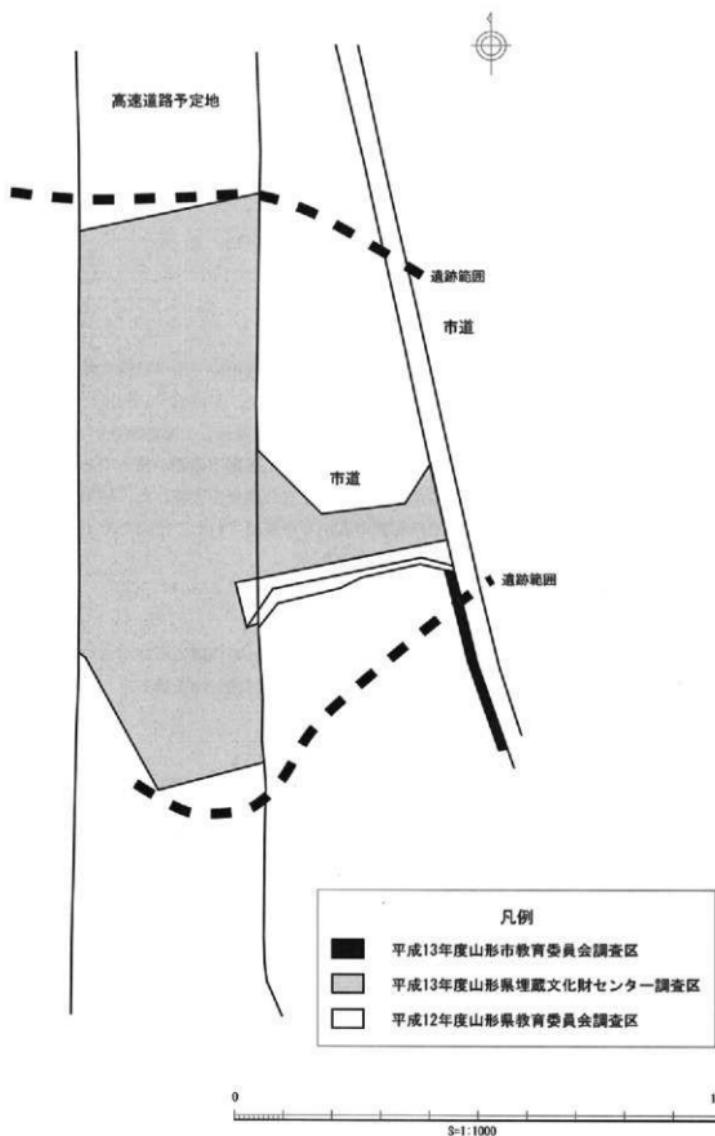
本遺跡は山形市の北西部、JR 奥羽本線漆山駅から西に約2.2km の位置に所在する。地形的には白川右岸の自然堤防上に位置する。地目は水田・畑地であり、標高は約97mを測る。

### 4 検出された遺構と遺物

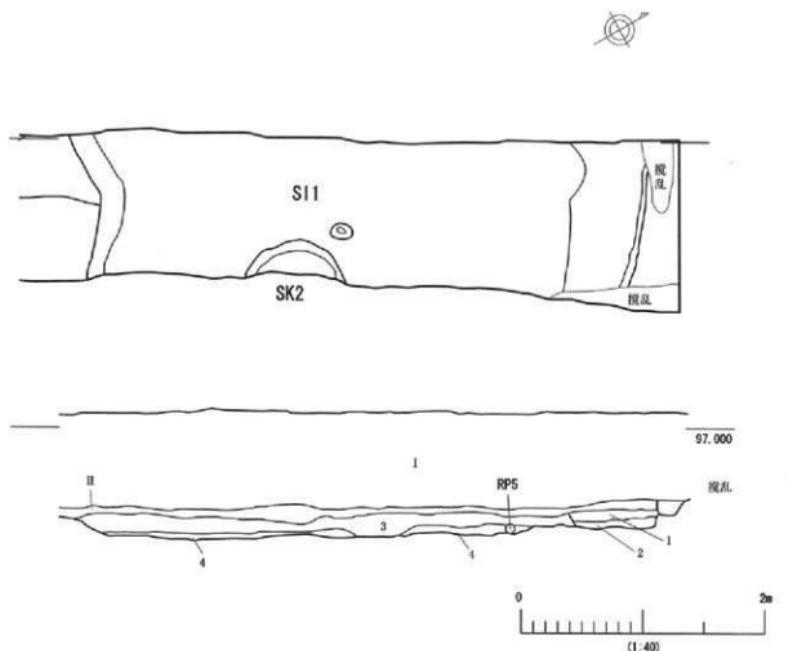
検出された遺構は古墳時代中期前葉の竪穴住居跡1棟、時期不明の土坑1基である。出土遺物・遺構については現在整理途中であるが、5世紀代の年代と考えられる。出土遺物は土師器・甕・高台・高壙等である。（財山形県埋蔵文化財センター及び山形県教育庁文化財課調査時に検出された、近世墓群の広がりは確認されなかった。

### 5 まとめ

本調査区からは古墳時代中期前葉の竪穴住居跡1棟が検出された。今回の立会調査により、平成12年度県文化財課・平成13年度山形県埋蔵文化財センター調査区に隣接して更に東側に遺跡範囲が広がることが確認された。しかし、当調査区内において南側への広がりは確認されなかった。西側隣接地の山形県埋蔵文化財センター調査区で検出されている古墳時代の遺構・遺物と同様の様相を呈しているものと判断された。今後、双方の成果を合わせて検討する必要があると思われる。



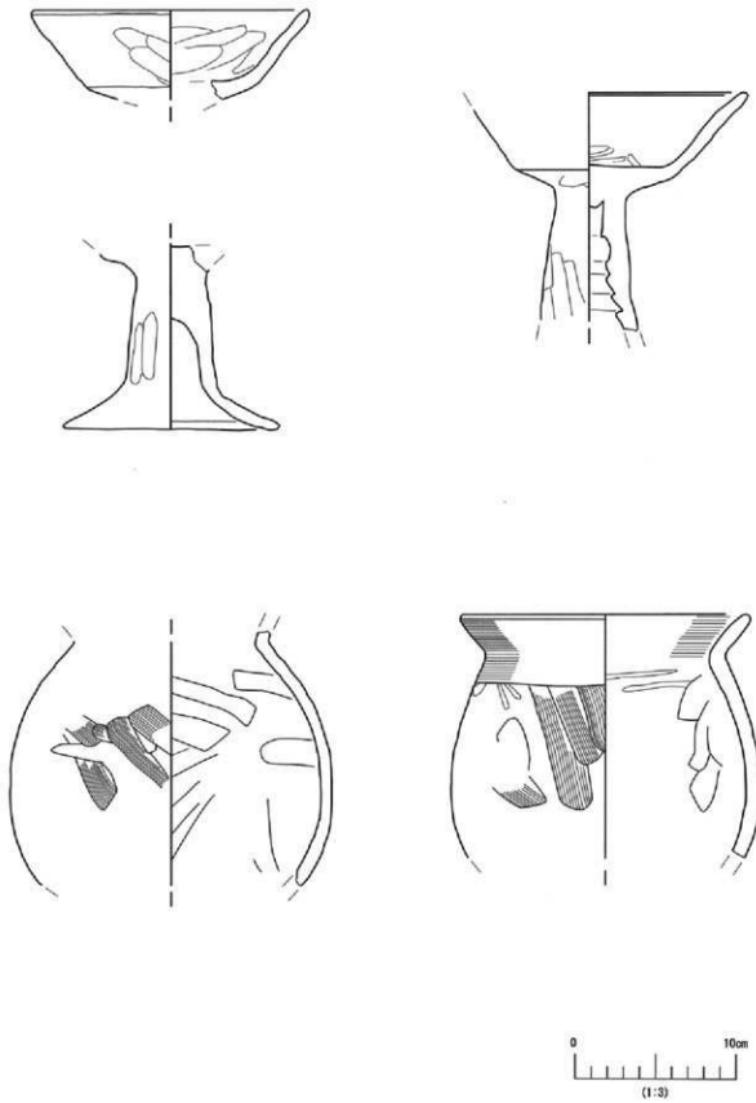
第7図 洪江遺跡調査概要図



第8図 渋江遺跡 SI1 平面図・断面図

表3 渋江遺跡 SI1 土層注記

層位	土色・土質	注記
I	10YR 4/1 暗灰色シルト	耕作土
II	10YR 3/2 黒褐色シルト	近世の包含層か?
1	10YR 6/1 暗灰色シルト	粗砂わすかに混じる。
2	10YR 2/1 黒色シルト	炭化物層。遺物包含。
3	25Y 6/1 黄灰色シルト	SI 1 覆土。均質。
4	10YR 2/1 黑色シルト	SI 1 覆土。炭化物層。
5	10YR 2/1 黑色シルト	炭混じる。



第9図 渋江遺跡 S11 出土遺物

## 第III章 総 括

### 平成13年度の調査成果

平成13年度は、前述の通り、土地区画整理事業に伴う調査を中心に、住宅団地開発事業、店舗建設工事、鉄塔建設工事、道路改良工事等に伴う緊急発掘調査及び史跡整備事業に伴う学術調査を実施している。

山形城跡では、史跡山形城跡本丸大手門復原整備事業に伴う発掘調査が継続されており、

城南町一丁目遺跡では、これまでと同様古代～近世の遺構・遺物が検出され、山形城下町の一端が明らかとなった他、縄文時代中期の包含層及び柱穴群が検出され、当地に縄文時代時代の集落跡が存在したことが確認された。

双葉町遺跡では、山形城三の丸堀跡が検出され、三の丸の範囲を決定する上で貴重な資料を得ることができた。

吉原Ⅲ遺跡では、8世紀後葉～9世紀前葉の掘立柱建物跡が検出された。

上谷柏遺跡では、底をもつ掘立柱建物跡1棟と河川跡が検出された。調査成果については、前年度調査を実施した石田遺跡と合わせて平成13年度中に報告書を刊行している。

長谷堂城は、平成14年度も園路整備が継続されており、工事の内容に併せて立会い調査等を実施している。概要については平成14年度年報により報告する予定である。

渋江遺跡では、古墳時代中期前葉の竪穴住居跡が1棟確認された。住居跡の形態及び出土遺物は、隣接地の調査を実施した山形県教育委員会及び財団法人山形県埋蔵文化財センターによる同遺跡の調査成果と同様の状況を呈しており、同遺跡の範囲がさらに東側へ広がることが確認された。

吉原VII遺跡では、集落を区画すると推定される溝跡が検出され、9世紀第3四半期の土師器及び須恵器等の遺物が出土した。周辺に所在する吉原I遺跡や吉原III遺跡とやや時期が異なっており、吉原地区の集落の変遷をたどるまでの資料を得ることができた。調査成果については、平成13年度中に報告書を刊行している。

石田遺跡では、平成12年度に実施した調査区域の隣接地の調査を実施したが、遺構・遺物とも全く検出されず、遺跡の範囲外と判断した。

梅野木前2遺跡では、平安時代の掘立柱建物跡等が検出された。周囲に所在する今塚遺跡、河原田遺跡等とほぼ同時期の集落跡で、周辺の集落配置等を考察する上での資料を得ることができた。調査成果については、平成11年度に調査が実施された河原田遺跡と合わせて、報告書が刊行される予定である。

山形城三の丸跡については、三の丸堀跡が検出され、平成14年度に発掘調査を実施している。調査成果については、平成14年度中に報告書を刊行する予定である。

なお、平成13年度までに、本市教育委員会が刊行した発掘調査報告書は、表4の通りである。

表4 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

集番号	書 名	発行年月日	発 行 機 閣	備 考
1	熊ノ前遺跡第1次発掘調査報告書	1975/5	山形市教育委員会	第1次調査報告書
2	熊ノ前遺跡第3次発掘調査報告書	1978/11	山形市教育委員会	第3次調査報告書
3	山形城跡発掘調査報告書	1981/3	山形市教育委員会	
4	菅沢古墳二号墳発掘調査報告書	1987	山形市教育委員会	
5	菅沢2号墳	1991	山形市教育委員会	
6	鷗遺跡発掘調査概報	1994	山形市教育委員会	
7	馬上台遺跡発掘調査報告書	1995/3	山形市教育委員会	
8	山形城本丸発掘調査概報	1996/3	山形市教育委員会	平成6・7年度調査概報
9	中野目I遺跡中野目II遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	特殊法人日本労働者住宅協会 山形県労働者住宅生活協同組合 山形市教育委員会	
10	吉原I遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社カワチ薬品 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
11	吉原III遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社東北ケーズデンキ 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
12	一ノ坪遺跡発掘調査報告書	2001/11/30	山形市教育委員会 古学研究所	
13	吉原VII遺跡発掘調査報告書	2002/3/31	東北ミサワ建設株式会社 東松山市教育委員会	ム社会
14	石田遺跡上谷柏遺跡発掘調査報告書	2002/6/30	東北電力株式会社 東山形市教育委員会	社会

---

**山形市埋蔵文化財調査年報**

**平成13年度**

2003年3月31日発行

発行 山形市教育委員会

〒990-8540 山形市旅籠町二丁目3番25号

TEL023-641-1212

印刷 コロニー印刷(山形福祉工場)

〒990-2322 山形市桜田南391-2

TEL023-641-1136

---

